

## 令和4年度 第1回 タウンミーティング（概要）

○開催日時 令和4年5月17日(火)午後3時15分～4時15分頃

○開催会場 江南市役所 第2会議室

### ○開会あいさつ

皆様方には、日頃からそれぞれの団体等で市政に対し、ご協力をいただいておりますことを感謝申し上げます。

江南市も子育て支援センターを中心に子育て支援事業を展開していますが、職員だけでなく、皆さんのお力もいただきながら進めさせております。本日は、市と協力して進められる事業についても、ご意見があれば伺いたいと思います。

### ○各団体等の参加者と市長の意見交換

#### 参加者

私からは、本日参加しました各団体間の連携についてお話をし、出席者から少し各団体について紹介をいたします。

本日の出席者は、日頃は情報交換や交流、学びの場を持つとともに、「親子のハピースポット」というイベントをメインで実施している団体の集まりです。

親子のハピースポットは、愛知江南短期大学をメイン会場とし、先生や学生さん方にも協力してもらい、これまでに5回行うことができました。5回のうち2回は、江南市地域まちづくり補助事業として実施し、その後は企業から協賛をいただき開催しています。

しかし、残念ながら、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、2020年以降はできておりません。

開催時の内容については、各団体が得意としていることに特化して、例えば、人形劇のイベントを開催するほか、短大の先生方にも協力してもらい、親の学びの場や癒しの場を作っていくということがメインに活動しておりました。

短大や子育て支援センターにも協力してもらい、民間団体も一緒に活動することで、産官学による協働事業として、実施することができました。

コロナ禍で従来のような活動ができない状況ではありますが、お互いの交流のほか、令和3年度は、市政よもやま塾で市の子育て支援事業について学ばせてもらいました。今年度は小さな取り組みをいくつか進めたいと考えているところです。

#### 参加者

「子どもと文化の森」では、週2回、未就園児の親子が集まって、広場を開催し、お母さんのたちの情報交換や子どもの仲間づくり等を支援しています。江南市での活動として、親子のハピースポットの企画・運営を行い、たくさんの親子に参加していただきました。コロナ禍が落ち着き、人が集まれる状況になったら、小さいながらも子育て支援としてイベントを再開したいと思っています。

現在、江南厚生病院では、年3回程度、入院中の病児支援として広場を開催しています。参加する子どもは先生の許可などが必要になるため、多くの方が来ら

れるわけではないのですが、親子でのんびりすごせる場を提供しています。最近では、祖父母の方が付き添いとして増えており、慣れない環境の中でこうした支援があつて助かっているという声もいただいています。

夏休みは院内学級で工作などの特別講座を実施しており、子どもたちには私たちのような外部のスタッフと会話も楽しみながら、夏休みという特別な時間を過ごしてもらっています。

また、古知野中学校2年生を対象に「命の授業」を行ってきました。助産師の方にお話し、胎児の人形を使って、お腹の中で赤ちゃんがどのように育ち、生まれるのか、お産の話を通して、命を大切にすることを伝えてきました。現在は、残念ながら、コロナ禍で行くことができなくなり、実施ができていません。

育児中の親子だけでなく、中高生など若い世代に対しても、私たちができることがあれば、活動の機会を増やしていきたいと思っており、市内の全部の小・中学校で実際することを目指しています。

#### 市長

病児支援は活動にあたり、コロナ禍の影響が大きかったと思いますが、年間予定などは決まっているのですか。

#### 参加者

1年間通して予定は決めています。2020年はできませんでしたが、2021年はほぼ予定通り実施することができました。この活動も、江南厚生病院とタイアップして応募した江南市地域まちづくり補助事業をきっかけに、始めることができました。

#### 参加者

「お母さんのほっとタイム」は、2004年に活動を始めました。布袋北部学習等供用施設でおやつを提供しながら、心に関する相談などを開催してきました。2018年には、嶋田妙子さんを講師にお招きし、児童虐待に関する内容の講演会を実施し、市長にも出席をしていただきました。

現在は、コロナ禍の影響や会員が忙しかったりし、個別にお母さんたちからの相談をお聞きしています。アットホームな感じで、親子が安心して、ほっとできる空間を提供したいと思っています。

#### 市長

講演会にはとても多くの方が参加されていましたね。講師の方のお話にとっても感動しました。団体の活動を広げていくことは難しかったのではないのでしょうか。

#### 参加者

立ち上げのきっかけは、子育て中の方に、先輩から応援ができればと思い開催したことなので、多くの方に来てもらうのではなく、5人も来てもらえればいいのかなど思っていました。参加者もこの人数ならとお話をできると言われた方

もいました。アットホームな感じで地道にコツコツと進めています。

**参加者**

お母さんのほっとタイムの活動は、コロナ禍が落ち着いたら、こじんまりでもいいので再開できればと思います。

**参加者**

「在宅子育て支援ちゅーりっぷ」は、2019年4月から、在宅の産前産後の支援として、家事や育児のサポートを行っています。概ねどの自治体でも、保育園で預かることができるのは、生後7カ月以降となっていますが、兄弟もいると、それまでの子育てが特に大変なので、保育士の経験を活かし仕事として支援を行っています。

コロナ禍で子育て支援センターなど公の施設が休館になり、親子の行く場がなくなってしまったので、2020年に商工会議所のコロナ対策の補助金を活用して、家の離れを改装し、やっと2021年10月に子育てサロンをオープンすることができました。サロンは、子育て支援センターのように、親子が自由に来て、自由に帰ってもらえるようになっており、平均3・4組、多い時は8組くらいのお母さんたちが来ています。その2階ではワークショップを開催するほか、レンタルスペースとして、講師が場所を借りて講座を開くなどの活用をしています。

コロナ禍でマスク姿が当たり前になり、人と関わる時間が極端に少なくなっている子が多くなっています。お母さんたちの気持ちが楽になるよう、親子への細かい支援がこれから大切になっているのではないかと思います。活動は、私だけでなく、講師やボランティアの方に協力してもらっています。サロンは月曜日から金曜日の午前中オープンしています。1回の利用料は300円で建物の電気代やおやつ代程度に充てています。ここで顔見知りになって、何かあった時に駆けつけられる関係性を作っていけるといいなと思っています。

**市長**

在宅支援などで外に出られることも多いと思いますが、その場合、サロン活動はどうされているのですか。

**参加者**

私が在宅支援で不在の時は、今日の出席者をはじめ、ボランティアの皆さんに、サポートしてもらっています。

**参加者**

今は修文大学で准教授を務めており、愛知江南短大は講師として授業を行っています。市の子ども子育て会議にも委員として関わらせていただいています。

江南市では、多くの子育て支援団体が活躍しています。私が、団体の皆さんと出会ったときは皆さんがこれからどのような活動をしていくのか、話し合っていたときでした。私は、違った立場から、活動を耳にしながら勉強会を通して、

アドバイスをしていますが、親の要望に耳を傾け、江南市が住みやすい街だと言ってもらえるよう、団体は1つ1つの小さな活動に取り組みながら、互いに協力して活動を実施していくことができるといいと思っています。市でも活動への理解を深め、バックアップをしてもらいたいです。

また、子どもたちの将来の事を考えると、特に0～2歳児をもつ親の時期が重要で、その時期の親を対象にした講座が必要だと思っています。親が子どもにきちんと向き合うことは大切です。子どもが自立するためには、子どもの心に寄り添わないといけないので、市の施設でも、専門性のある職員が、適切なアドバイスをできるようにしてほしいと思っています。親への支援を通して、子育てしやすい街になればと思います。

#### 参加者

昨年10月から12月にかけて、市内の子育て支援団体などが協力し、子育て支援センターに関するアンケートを行い、保護者の皆さんがどのような期待を持っているのか伺いました。

結果として、216通の意見が集まり、うち、ネットで100通ぐらいが寄せられました。回答数が多かったのは、ネットで回答できる手軽さのほか、子育て支援センターをよく利用していても、声を寄せる機会がなかったことが大きな理由ではないかと思っています。

中でも、自由意見のうち、転入された方からの意見が特徴的で、「私は他県から引っ越してきたので、支援センターへ行って先生や親子に会えるのが唯一の楽しみでした」、「友達や親戚もいない中で、子どももいるので転職活動も難しく、一旦自宅保育となると頼れるのは行政のみです。江南市が発展していくためにもよそから来た人が育児しやすい環境を増やしていくことは大事ではないかと思っています」といった意見がありました。

保護者の皆さんが何に心を寄せているかという点、施設面が整っていることも重要ですが、先生方の資質が向上することがとても大事だと思っています。

先ほど、親子講座のお話もありましたが、出席できない人もいますので、子育て支援センターの先生が、きちっとした知識を伝えられる技量を持っていただくと、たくさんの保護者の方に伝わりやすくなると思います。市長は、先生方のレベルアップについてどのように考えていますか。

#### 市長

個人がもっている資質は様々です。人にどのように伝えていくのかという能力を高めていくのは難しいことですが、研修や各自での勉強などを通して、資質のアップを図ることは必要だと思います。

#### 参加者

市内に笹瀬先生など多くの先生もおられるので、お力を借りて、私たち民間団体もレベルアップする必要があると思っています。短大内にある子育て支援センター（こーたん）に対する要望も多くありました。短大が閉学する中で、どうなるのか心配されている方も多くおられます。

**市長**

施設の継続については働きかけをしていきたいと思えます。地域的にいい場所があり、子育て支援センターとして短大や学生の協力も得られ、乳児（0～2歳児）とその保護者の受け入れに特化した避難所も設置されています。

結論はまだ出されていないと聞いていますが、続けていただきたいと思っています。

**参加者**

災害時においても、親子にとって、気兼ねなく過ごせる場所が必要だと思っています。もし継続されないなら、別の場所に子育て支援センターを設置してほしいと思っています。

**参加者**

災害時、避難所に身を寄せても、子どもが好きな人ばかりではないので、親は周りの人に気を遣うことが多くあると思います。存続するよう、短大側と話し合っしてほしいと思います。

**参加者**

子育て支援センターは家の近くにあるのがよく、ベビーカーで通える場所にほしいという声も聞きます。市内の中央に子育て支援センターがなくなると、困る方は多いと思います。周辺に児童館があり、0～2歳の受け入れをしていますが、子育て支援センターとしての機能がある場所が必要です。こーたんが残ることが一番だと思いますが、施設の継続をされないなら、それに代わる施設について市長はどうお考えでしょうか。

**市長**

避難所としてもご協力いただいているので、安心感があると思います、場所としてこーたんに変わる計画は聞いていませんが、課題として捉えています。

**参加者**

発達が違う子どもを持つ親からの相談で、不登校の子について、どこへ相談したらいいのか、わからないと相談を受けました。市の適応指導教室は、勉強を主としているような雰囲気があると聞きます。不登校の子は、その時期や子どもに応じた関わり方が重要だと思います。

**参加者**

勉強だけでなく、スポーツやレクレーションなども含め、子どもたちと関わっていくことができるとよいと思います。

**市長**

先生方も一生懸命取り組まれておられるので、理解されていると思えますが、

勉強だけでなくいろいろな方法で子どもたちと関わりが持てることはいいと思います。

#### 参加者

教室の立ち上げの頃は、大学生のボランティアがスポーツなどを通して、子どもたちと交流を深めていました。メンタルフレンドやボランティアの活動がさらに活発になることを願っています。コミュニケーションの方法などに自信を深め、よしとなれば学校へ少しずつ戻れるのが望ましいです。

#### 参加者

私たちの活動の一番の主役は子どもたちです。子どもが幸せになることを考えたいと思います。昨年度、江南市のNPO・ボランティア講座の中で大学生が、「江南市で育ってきてとても幸せでした。そのため、江南市に1つでも恩返しをしたい」と語ってくれました。そうした子が1人でも、多く育っていく街であってほしいと願っています。

#### ○閉会あいさつ

子どもたちが将来をどう考えているのか、子どもとの対話が大事です。また、皆さんの活動に親子が参加するときに、幼い子どもも親がどう対応したのか、先生がどのような話をしたのか、感覚的には理解していると思います。

皆さん方の尊い使命に感謝を申し上げますとともに、市が「子育て先進都市」を目指すことは間違っていないものと考えています。引き続き、ご協力をお願いいたします。

今後、団体の活動を継続していくためには、スタッフとして参加してもらえの方が増えていくことが大事だと思います。人を育てるのは難しく、「習うより慣れよ」といったことわざがありますが、皆が同じ気持ちを持って活動に参加していくことが大切だと考えています。本日はありがとうございました。